

2020(令和2)年度 子どもの心のケア地域拠点事業実施報告

宮城県では、震災後の心のケアについて「子どもから大人まで切れ目のない支援」を震災復興計画に掲げており、みやぎ心のケアセンター（以下、当センター）は、2016年4月から、2021年3月までの5年間、子どもの心のケア業務を受託している。委託業務は、「相談事業」「専門職派遣事業」「研修事業」「普及啓発事業」「調査研究事業」の5つの事業である。

以下は、2020年度子どもの心のケア地域拠点事業（以下、拠点事業）の内容と実績および5年間の事業を総括して記載する。なお、数値は、当センター統計資料の20歳未満のデータを再掲したものである。

1. 委託事業の内容と実績

(1) 相談事業

当センターでは、市町や小中高等学校などの教育機関および保育所などを通じ、子どもの心のケアに関する相談に応じている。市町の乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）や相談窓口などへの専門職派遣に際し、支援者やご家族などから子どもへの対応に関する助言などが求められ、相談に至ることが多い。

2020年度の相談件数は、延べ件数431件、実人数125人であった。2019年度の延べ件数373件から増加し、実人数は134人からわずかに減少している。

年齢別・相談者別相談件数は表1に、年齢別・居住地別相談延べ件数は表2に示した。

年齢別で見ると、2019年度163件だった7歳～15歳の相談が減少し、139件だった16歳～19歳の相談が大幅に増加している。地域別では、気仙沼市の件数増加が大きく、7歳～15歳と16歳～19歳の件数はいずれも100件を超えている。石巻市は、7歳～15歳の減少が大きい。基幹センター管内では、2019年度とほぼ変わらない。

表1 年齢別・相談者別相談件数
(延べ件数 431件 実人数 125人)

		6歳以下	7～15歳	16～19歳	合計
延べ件数 (相談者別)	本人	1	99	176	276
	家族	72	48	32	152
	その他	0	0	3	3
	合計	73	147	211	431
実人数		61	34	30	125

表2 年齢別・居住地別相談延べ件数

居住地		6歳以下	7～15歳	16～19歳	合計	
延べ件数 (居住地別)	基幹センター	仙台市	3	2	6	11
		塩竈市	0	0	0	0
		名取市	0	0	2	2
		多賀城市	0	0	0	0
		岩沼市	0	0	0	0
		富谷市	0	0	0	0
		亶理町	0	0	0	0
		山元町	0	1	0	1
		松島町	0	0	0	0
	上記以外	0	2	2	4	
	石巻地域センター	石巻市	30	6	7	43
		東松島市	16	5	8	29
		女川町	2	0	0	2
気仙沼地域センター	気仙沼市	0	131	148	279	
	登米市	0	0	0	0	
	南三陸町	0	0	12	12	
匿名	22	0	1	23		
合計	73	147	186	406		

※延べ件数431件のうち25件は居住地「一関市」のため、表2において集計対象外となっている

(2) 専門職派遣事業

児童精神科医や臨床心理士、保健師などの専門家を市町保健センター、保育所や小中学校などに派遣し、職員に対するコンサルテーションや研修などを行った。2020年度は延べ262機関に派遣したが、2019年度の229機関に比べ件数は増加している。派遣先別・職種別派遣件数は表3に、派遣先別・市町村別派遣件数は表4に示した。

派遣先機関では、市や町が197件で最も多く、うち、140件を保健師が対応したが、2019年度の110件に比べ増加している。派遣する職種全体でも保健師が最も多く、次いで臨床心理士、精神保健福祉士、精神科医となっている。保育所や幼稚園への派遣は2019年度19件、小学校と中学校への派遣は、それぞれ13件と3件となっている。

派遣先の市町では石巻市（117件）が最も多く、次いで亶理町（42件）、山元町（33件）、名取市（25件）となっている。

表3 派遣先別・職種別派遣件数 262件

派遣先 職種	県関係	市町村	保育所 幼稚園	小学校	中学校	その他	合計
精神科医	0	9	0	3	2	1	15
臨床心理士	4	27	7	0	0	1	39
精神保健福祉士	1	21	0	0	8	2	32
保健師	0	140	4	0	0	22	166
その他	0	0	10	0	0	0	10
合計	5	197	21	3	10	26	262

表4 派遣先別・市町村別派遣件数 262件

市町	派遣先	派遣先別・市町村別派遣件数						合計
		県関係	市町村	保育所 幼稚園	小学校	中学校	その他	
基幹センター	仙台市	0	1	0	3	2	1	7
	塩竈市	0	1	0	0	0	0	1
	名取市	1	14	10	0	0	0	25
	多賀城市	0	2	0	0	0	0	2
	岩沼市	0	12	0	0	0	0	12
	亘理町	0	42	0	0	0	0	42
	山元町	0	32	1	0	0	0	33
石巻地域センター	石巻市	3	83	8	0	0	23	117
	東松島市	0	5	0	0	0	0	5
	女川町	0	0	2	0	0	0	2
気仙沼地域センター	気仙沼市	1	2	0	0	8	2	13
	登米市	0	2	0	0	0	0	2
	南三陸町	0	1	0	0	0	0	1
合 計		5	197	21	3	10	26	262

(3) 研修事業

2020年度は、31件の研修会について主催および講師派遣を行った。2019年度47件から減少となった。研修会講師職種別・市町村別実施状況は表5に、研修事業の実施一覧は表6に示した。当センターが主催する研修会としては、災害後における心理的支援の基本的方法を示した「子どものための心理的応急処置（PFA）研修」（以下、子どもPFA研修）および「トラウマインフォームドケア研修」をそれぞれ県内1カ所（仙台）で1回開催した。

表5 研修会講師職種別・市町村別実施状況

開催地	講師職種	講師職種別実施状況					合計
		精神科医	臨床心理士	精神保健 福祉士	保健師	その他	
基幹センター	仙台市	4	0	1	0	0	5
	塩竈市	0	1	0	0	0	1
	白石市	1	0	0	0	0	1
	名取市	0	0	0	2	8	10
	多賀城市	0	0	0	0	0	0
	岩沼市	0	0	0	0	0	0
	栗原市	0	1	0	0	0	1
	大崎市	1	0	0	0	0	1
	蔵王町	1	0	0	0	0	1
	丸森町	1	0	0	0	0	1
	大和町	1	0	0	0	0	1
	石巻地域センター	石巻市	2	0	0	1	0
東松島市		1	0	0	0	0	1
女川町		0	0	0	0	0	0
気仙沼地域センター	気仙沼市	0	0	5	0	0	5
	登米市	0	0	0	0	0	0
	南三陸町	0	0	0	0	0	0
合 計		12	2	6	3	8	31

※その他は、臨床発達心理士、看護師

表6 研修事業の実施一覧

実施日	開催市町	研修名(テーマ)	主な参加対象者	参加人数	講師職種
2020/5/29	仙台市	学校再開に向けたこころのケアについて	宮城県立高等学校教育相談担当者など	78	精神科医
2020/7/8	気仙沼市	気仙沼地域センターの活動について	児童相談所職員	8	精神保健福祉士
2020/7/9	大和町	子どもの精神疾患について	宮城大学看護学群4年生	12	精神科医
2020/7/13	名取市	エジンバラ産後うつ質問票〔EPDS〕の活用	名取市新人保健師・管理栄養士	20	保健師
2020/8/4	名取市	気になる子を含む集団への働きかけの在り方について	増田保育所	10	臨床発達心理士
2020/8/20	塩竈市	家族関係から見る母子事例への関わり	塩釜保健所管内保健師	26	臨床心理士
2020/8/24	名取市	データを活用してみよう	名取市新人保健師・管理栄養士	10	保健師
2020/8/28	名取市	チームワークと私と思いやり～共感って疲れませんか～	名取が丘保育所	17	その他
2020/9/14	丸森町	災害後期における長期的視点にたった児童生徒の心理的サポート	金山小学校	20	精神科医
2020/9/15	仙台市	子どもの傷ついた心にアプローチするために～トラウマインフォームドケアの基礎を学ぶ～	児童福祉など	34	精神科医
2020/9/25	仙台市	子どものための心理的応急処置〔PFA for Children〕1日研修	教育関係者など	16	精神科医
2020/10/5	仙台市	みやぎ心のケアセンターから見た子どもの心のケアの現状と課題	行政関係者など	19	精神保健福祉士
2020/10/6	名取市	気になる子を含む集団への働きかけの在り方について	増田保育所	10	臨床発達心理士
2020/10/8	東松島市	子どもの育ちを支えるネットワークづくり	東松島市保護児童対策地域協議会	55	精神科医
2020/10/14	石巻市	子どもの成長を支援すること	教育関係者	20	精神科医
2020/10/22	名取市	チームワークとは	名取が丘保育所	20	その他
2020/10/27	名取市	気になる子を含む集団への働きかけの在り方について	名取が丘保育所	10	臨床発達心理士
2020/11/2	気仙沼市	悩める中2のオモテウラ	面瀬中学校2年生	59	精神保健福祉士
2020/11/10	名取市	傾聴について	名取が丘保育所	20	その他
2020/11/13	気仙沼市	気仙沼地域センターの活動について	児童家庭支援センター職員	3	精神保健福祉士
2020/11/26	栗原市	体罰等によらない子育てのために～みんなで育児を支える社会に～	栗原市民	120	臨床心理士
2020/12/8	気仙沼市	薬物依存の現状と危機回避	気仙沼高等学校定時制	52	精神保健福祉士
2020/12/9	名取市	気になる子を含む集団への働きかけの在り方について	名取が丘保育所	10	臨床発達心理士
2020/12/15	名取市	気になる子を含む集団への働きかけの在り方について	増田保育所	12	臨床発達心理士
2020/12/21	白石市	希死念慮を抱える生徒への対応について	教育関係者	40	精神科医
2020/12/23	石巻市	災害後期における長期的視点にたった児童生徒の心理的サポート	石巻北高等学校	40	精神科医
2021/1/15	蔵王町	傾聴の勘どころ	蔵王高等学校	10	精神科医
2021/1/19	石巻市	事例検討会	石巻市新时期保健師	6	保健師
2021/2/1	仙台市	コロナ禍で子どものこころに生じていること	川崎市西部地域療育センター	25	精神科医
2021/2/10	大崎市	発達に偏りがある生徒への対応	古川黎明高等学校	30	精神科医
2021/2/18	気仙沼市	看護職のメンタルヘルスのセルフケア	気仙沼市立病院附属看護専門学校	33	精神保健福祉士

(4) 普及啓発事業

2020年度は、表7のとおり研修参加者などに啓発用クリアファイルを配布したほか、子ども向けセルフケアのポスターを作成し、県内の公立高等学校および特別支援学校に送付した。

表7 普及啓発事業の実施一覧

実施日	開催市町	内 容	配布人数
2020/9/15	仙台市	子どもの心のケア地域研修 講師および受講者に普及啓発のクリアファイルを配布	35
2020/9/25	仙台市	子どものための心理的応急処置〔PFA for Children〕1日研修（仙台）受講者に普及啓発のクリアファイルを配布	16
2020/10/5	仙台市	令和2年度 子ども・子育て支援者サポート会議 出席者に普及啓発のクリアファイルを配布	25
2021/3/4	仙台市	宮城県内の公立高等学校および特別支援学校へ普及啓発（セルフケア）のポスター送付	111

(5) 調査研究事業

例年行っている『東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究』については、本号の『調査研究報告』で報告する。

2020年度の調査研究発表は表8のとおりである。

表8 調査研究事業の実施一覧

実施日	活動内容	テーマ	担当職種
2020/9/11	第38回日本小児心身医学会学術集会災害関連セッション（Web開催）	日本における新型コロナウイルス感染拡大が子どもたちの心身に及ぼしたさまざまな影響	精神科医
2020/9/21	第19回日本トラウマティック・ストレス学会 ポスター発表（Web開催）	東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断支援研究(1)：宮城県の児童の認知発達、問題行動、家庭の被災状況の関連から	精神科医
2020/9/21	第19回日本トラウマティック・ストレス学会 ポスター発表（Web開催）	東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断支援研究(2)：保護者の被災状況及び過去のトラウマ体験によるクラスターごとの経過について	臨床心理士
2020/9/21	第19回日本トラウマティック・ストレス学会 シンポジウム（Web開催）	母親のメンタルヘルスと地域支援の実際	精神科医

2. まとめ

2020年度と2019年度とを比較すると、相談事業件数は増加し、事業受託5年目で最大となった。実人数は大きく増加していないことから、困難ケースなど複数回支援を必要とする子どもや保護者が増えたと考えられる。

専門職派遣事業については、2019年度から増加したが、2018年度の309件、2017年度の266件を下回った。

研修事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、回数、参加者数とも前年を大きく下回った。対面・大人数による実施が困難な点もあり、普及啓発に関しても同様であるが、従来と異なった方法を取り入れていく必要がある。

さて、2016年度から委託された子どもの心のケア地域拠点事業は2020年度で終了となった。当事業は、心のケアを要する子どもやその保護者の相談に応じるとともに、子どもの心のケアに関わる支援者に対するコンサルテーションや研修を行い、子どもの心のケア、メンタルヘルスの向上を図ることを目的に、気仙沼地域センター、石巻地域センター、基幹センターそれぞれが「子どもから大人まで切れ目のない支援」を心掛けて、冒頭に述べた5つの事業を実施してきた。以下、事業ごとに振り返る。

まず、「相談事業」は、子どもや保護者、支援者からの相談に、来所、家庭訪問、電話などさまざまな手法で対応してきた。地域センターごとに、対応のきっかけや手法が異なっており、地域の事情に応じ柔軟な対応を行っており、件数にも違いがでていいる。今後もニーズに丁寧に対応しつつ、当センター閉所後を見据えた、相談対応の受け入れ体制を関係機関と検討していく。

「専門職派遣事業」では、市町からの依頼に基づき、センター職員によるスーパーバイズや、専門職を

派遣し、担当者や保育士とケース検討を行ってきたが、外部専門職との連携の有用性を認識し、独自に予算化する市町もでてきており、この動きが他の市町へ広がっていくことを期待したい。

「研修事業」では、教育関係者や支援者向けに、「震災後の子どもの心のケア」などをテーマにセンター職員による講話や、専門講師を招き「トラウマインフォームドケア研修」、「子どもPFA研修」などを保健師、保育士、学校教諭などの専門職に行った。参加者の関心も高く、子どもたちに起こりうる問題とその予防、支援のあり方を考える良い機会となった。

「普及啓発事業」では、研修事業やサロン活動に際し啓発資料を配布し、ポスターを小中学校、公立高等学校および特別支援学校に配布した。また、2012年度から2019年度まで、被災地の親子に心理教育や災害に係る正しい知識の普及を目的として、「被災地の親子を対象としたキャンプ事業」を実施した。

「調査研究事業」では2016年度から、「子どもコホート調査」を子どもと家庭の変容評価、効率支援の明確化などを目的に実施しており、貴重な調査データとして期待されるもので、今後も継続していく。

子どもの心のケア地域拠点事業は、2020年度で終了するが、2021年度からは、「地域住民支援」「支援者支援」「普及啓発」の3事業の中で「子どもから大人まで切れ目のない支援」を継続していく。2021年度以降も必要とされる「子どもPFA研修」や「子どもコホート調査」などの事業継続を図りつつ、必要な連携に努めていきたい。